

## 滝上の人

## 地域に根ざして生きる

今回は、新町 竹内正美さんにスポットをあてていきます。

竹内さんは、昭和23年和歌山県有田郡湯浅町生まれの71才。父親は会社を経営していましたが、事業に失敗。その後、家族は大阪市に転居しました。中学生の時は幼稚園の先生に進む希望でしたが、当時はまだ男性が幼児教育に携わるという認識が低く、中学校の先生の勧めもあって、工芸の高校に進み建築を学びました。高校時代は神社仏閣を巡るのが好きで、歴史や美術工芸に興味を持ったそうです。

高校卒業後は、大阪市の建築事務所就職し、設計の仕事で働いていました。30才のときに大手設計事務所から依頼を受けた仕事のため、中東のイラン、イラクに赴任し、石油関連の施設の設計に従事

したそうです。異なる文化圏での生活でしたが、もともと歴史や文化に興味があったことから、休日を利用して史跡などを巡り、文明発祥の地の歴史の奥深さを堪能しました。当時の中東は政情不安で、中東戦争の時期であり、空襲が日常で起こっていたこと、そして、現地の人が戦争に慣れていることが恐ろしいと思っただそうです。

北海道滝上町に来ることになったきっかけは？

「4年の間、都合2回にわたり中東で生活していましたが、現地でも革命や戦争を経験したこと、世界の国々や日本の在り方について考えました。」

帰国後は、都会に戻ってもまた変わらない生活になる、自分の人生は自分で変えようと思ひ立ち、中東赴任前に知

り合いであった徳村彰さん（森のこどもの村主宰）のつながりで、北海道滝上町で生活することを決意しました。大阪にいる頃の都市化された生活への離別と、地震や水害などに見舞われた経験から、これから開発されるであろう、そして災害の少ない町に住むのがふさわしい、との気持ちでやって来ました」

滝上に移住してからの生活は？

「滝上に移住することについて、それまでの自分の歩みとは違う生き方をしたいと願っていました。単身、滝上に移ってきましたが、まずは仕事探し。ちょうど町が臨時職員（桜ヶ丘スキー場の管理員）を募集しており、採用となりました。その後、町内で運送、造林の会社を経営している（株）滝上運輸の加納照光社長（故人）から声がかかり就職、現在に至っています。」

また、こちらに移住してから、網走管内の青年層の異業種交流会にも参加させてもらい、近隣にたくさん知り合いを作ることができました。現

在も息の長い交流が続いています。

また、私の生きがいでもある、木工のおもちゃ教室ですが、始めるきっかけとなったのは、町の教育委員会の事業と一緒に工作教室をする機会があったことで、はじめは既製品のキットを使うことが多かったのですが、同じような作品が並ぶことが悩みで、子どもの個性を引き出すことができないかを考えるようになりました。

そして、シラカバなどを使った手作りの木工おもちゃを製作することにしました。

もともと幼稚園の先生を志したこともあり、一緒に考えて自分で工夫し、作品を形にしていこうということが何よりも喜びです。木工教室の活動が知られるようになり、札幌の幼稚園や大学のイベントにも招かれるなど、自分の思いを伝えられることに感謝しています」

皆さんにひとことお願いします。

「これまでを振り返ると、

世界を見聞する機会もあり変化に富んだ歩みであったと思っています。意を決して移住した滝上町ですが、ここで出会った人々や生活の中で描いていた夢が叶えられていると実感しています。

いろいろな事に興味を持ち、物事に真剣に取り組むことが大切であると思っています。皆さまに感謝します」

地域と積極的に関わる竹内さん、これからも活躍ください。

